

「それぞれができることを」

八戸工業大学第二高等学校  
普通科 2年 桶本 明莉

東日本大震災で被害にあった福島第一原子力発電所。私はその当時初めて原子力発電という言葉聞いた。放射性物質など私たちの健康に被害をもたらす危険なものなんだと私は思っていた。だが原子力発電は火力発電と違い、二酸化炭素を排出しない優れた発電方法だった。

そんな原子力発電を行う施設が青森県にも二つ存在する。東通村にある東通原子力発電所と大間町にある大間原子力発電所だ。しかし、その二つの原子力発電所もまた東日本大震災からずっと運転や工事を停止している。青森県にはさらに使用済み核燃料を再処理する施設や再処理まで貯蔵することができる施設もある。もし原子力発電の安全性が証明され、世の中に広がれば、全国各地にある原子力発電所が再稼働し、もっとより良いエネルギー開発ができると私は思う。

火力発電ではなく日本のエネルギーが原子力発電に置き変われば、いま進んでいる再生可能エネルギーと合わさって、環境に優しいエネルギー開発ができる。しかし、原子力発電をエネルギーの主体にするのは困難を極めるに違いない。電力の約75%を原子力に頼っているフランスでさえ、東日本大震災の日本の被害を受け、原発反対の声が高まっているのだから。

原子力発電はずっと反対されているが、ここで原子力発電のいいところも考えてみよう。一つ目は、少量の燃料で大きなエネルギーを取り出せることだ。そうすれば、資源確保のために他国に依存することも少なくなるだろう。二つ目は、二酸化炭素を全く排出せずに、大量の電力を安定して供給できる上に、燃料費もほかの資源よりも安いことだ。原子力発電が再開すれば、いまなお高騰を続ける電気料金も少しずつ下がっていくかもしれない。原子力の悪い点だけでなくいい点にも目を向けつつ、再稼働について考えていってほしいと思う。

再生可能エネルギーと原子力発電が日本の電力の主流になることができれば、いま世界が目指すカーボンニュートラルの実現に近づくことができるのではないだろうか。カーボンニュートラルには二酸化炭素などの温室効果ガスの削減が大切だという。多くの二酸化炭素を排出し続けているといつまでもカーボンニュートラルは実現できないと思う。「すぐに火力発電やめよう！」とは言わないが、今の日本・世界の状況を見たら、資源がいつまでもつかも分からないし、ずっと続けていても、ただただ二酸化炭素を排出するだけだ。もっと再生可能エネルギーを使うことも大切だと考える。

いま、トヨタ自動車株式会社や三菱電機株式会社などの多くの大企業がカーボンニュートラル実現に向けた活動を行っている。では、私たちに何かできることはないのだろうか。実は蛍光灯の代わりに LED ライトを使うなどの細かな「節約」だ。電気をつけっぱなしにしないことや、使わない部屋の照明は消すこと、お店などの照明を少し暗くすることなど小さな積み重ねが、電力の節約にも、お金の節約にも役立ってくると思う。また、カーボンニュートラルのために私たち高校生ができることはまず知ることからだ。エネルギーに興味のある学生は少なくない。まず正しい情報を受け、それを正しく発信できるようにしなければならない。ポスターなどを使っての PR は高校生だからこそできることだと私は思う。これからは誰かがやってくれるのを待つだけでなく、国民一人一人が自ら積極的に動いていくことが大切になると思う。そのために自分もこれからできることをコツコツやっていきたい。

◎出典・参考

\*会津大学短期大学部産業情報学科経営情報コース

2016年度卒業研究論文要旨集 研究指導 石光 真 教授

原発大国フランスから日本は何を学べるか 長谷川 広大

<https://www.jc.u-aizu.ac.jp/department/management/youshi/2016/16.pdf>